

◆「ならしの歴史探訪コース」＜津田沼・藤崎地区＞

〔約6.0km〕

○コース順路（指定名木数：15）

新京成線新津田沼駅（又はJR津田沼駅）発

さくら公園

No.28 ソメイヨシノ
No.29 クロマツ

※開花の季節（4月初旬頃）にご覧ください

子安神社

No.31 イチョウ
No.32 タブノキ
No.33 スダジイ
No.34 スダジイ
No.35 タブノキ
No.36 ムクノキ
No.37 タブノキ
No.38 ヤブツバキ

正福寺

No.30 イチョウ

愛宕様

No.39 タブノキ
No.40 タブノキ
No.41 タブノキ

藤崎堀込貝塚

藤崎森林公園

大久保小学校

No.43 アメリカスズカケノキ

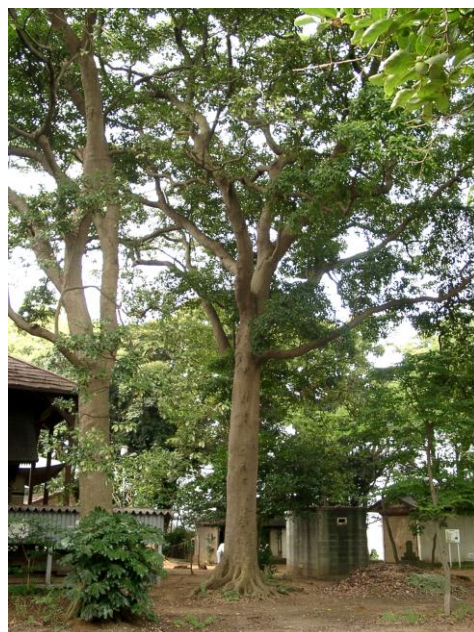
薬師寺

京成大久保駅着

※ハーフコースは正福寺から京成津田沼駅へ向かう



No.28 ソメイヨシノ



No.32 タブノキ

☆小休止ポイント
藤崎森林公園



No.31 イチョウ

地 図



※名木No.42 ユウカリジュ（藤崎3丁目街路）は台風による倒木のため、平成16年10月20日に名木指定を解除しました。

名 木 紹 介

指定番号 28 樹種名 ソメイヨシノ（ばら科）

名木分類 地域のシンボルとなっている木

樹高 9.4m 幹周り 2.49m

樹木説明 住宅地に残された、昔からある桜は、
地元のシンボルとなっています。

指定番号 29 樹種名 クロマツ（まつ科）

名木分類 地域のシンボルとなっている木

樹高 14.5m 幹周り 1.22m

樹木説明 旧道沿いに残された松並木の名残りの5本の松。

指定番号 31 樹種名 イチョウ（いちょう科）

名木分類 大きな木

樹高 14.5m 幹周り 2.28m

樹木説明 紅葉の季節にひととき美しく色づき、
たくさんの銀杏をつける雌の木。

指定番号 32 樹種名 タブノキ（別名 イヌグス）（くすのき科）

名木分類 古くからある木

樹高 23.3m 幹周り 2.89m

樹木説明 海の近くに自生する常緑高木。
市内の神社でよくみられます。境内で一番高い木。

指定番号 33 樹種名 スダジイ（ぶな科）

名木分類 大きな木

樹高 16.6m 幹周り 2.67m

樹木説明 中部以南に生える常緑高木。椎茸栽培の原木に用いられます。

指定番号 34 樹種名 スダジイ（ぶな科）

名木分類 大きな木

樹高 16.5m 幹周り 2.77m

樹木説明 堅果（ドングリ）は円錐状卵形で先は鋭形。
白色の子葉を持つ種子は食用となります。

指定番号 35 樹種名 タブノキ（別名 イヌグス）（くすのき科）

名木分類 大きな木

樹高 19.0m 幹周り 2.65m

樹木説明 別名の「イヌグス」は楠に似ているところからついた名前です。

指定番号 36 樹種名 ムクノキ（別名 ムクエノキ）（にれ科）

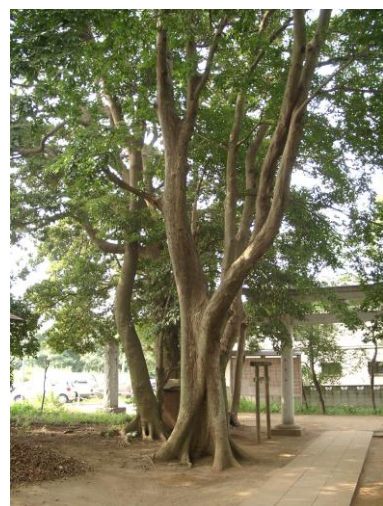
名木分類 大きな木

樹高 19.7m 幹周り 2.74m

樹木説明 本州中部以南の山野に自生。葉面はざらざらして物を磨くのに使われます。



No.35 タブノキ



No.36 ムクノキ

指定番号 37 樹種名 タブノキ (別名 イヌグス) (くすのき科)

名木分類 大きな木

樹高 19.4m 幹周り 2.87m

樹木説明 葉や樹皮から得た粉は線香を固める糊料として用いられました。

指定番号 38 樹種名 ヤブツバキ (つばき科)

名木分類 姿や形がきれいな木

樹高 9.6m 幹周り 1.18m

樹木説明 原植生の一樹種。市内に数ヶ所点在する群生地の一つ。
早春の小鳥たちの蜜吸い場。



No.38 ヤブツバキの花

指定番号 30 樹種名 イチョウ (いちょう科)

名木分類 古くからある木

樹高 13.1m 幹周り 3.76m

樹木説明 推定樹齢400年といわれる古木。
市の天然記念物に指定されています。



指定番号 39 樹種名 タブノキ (別名 イヌグス) (くすのき科)

名木分類 古くからある木

樹高 15.6m 幹周り 2.43m

樹木説明 海の近くに自生する常緑高木。
市内の神社でよくみられます。

指定番号 40 樹種名 タブノキ (別名 イヌグス) (くすのき科)

名木分類 古くからある木

樹高 14.9m 幹周り 2.45m

樹木説明 別名の「イヌグス」は楠に似ているところからついた名前です。

No.41 タブノキ

指定番号 41 樹種名 タブノキ (別名 イヌグス) (くすのき科)

名木分類 古くからある木

樹高 19.2m 幹周り 3.13m

樹木説明 葉や樹皮から得た粉は線香を固める糊料として使われました。
自然樹形がすばらしい。

指定番号 43 樹種名 アメリカスズカケノキ

(別名 プラタナス) (すずかけのき科)

名木分類 地域のシンボルとなっている木

樹高 19.0m 幹周り 2.61m

樹木説明 学校のみんにに親しまれており、児童会、在校生、
卒業生からも推薦されました。



No.43 アメリカスズカケノキ

チェックポイント

◆子安神社

県の神社明細帳によると、祭神は出雲国家系統のスサノオノミコトとクニナダヒメノミコトの二柱となっていますが、地元ではオオクニヌシノミコトとコノハナサクヤヒメノミコトとの四柱が祭神とされています。2／7に奉謝祭、10／19に例祭が行われています。クニナダヒメノミコトとコノハナサクヤヒメノミコトの二柱は、母と子を守る安産の神様であり、近隣住民に親しまれています。

◆正福寺と大イチョウ

阿弥陀如来を本尊とし、吉橋組大師講第二十五番札所及び習志野七福神の布袋尊札所としても知られています。昭和6年、藤崎小学校が開校したときには、その校舎として使用されましたが、大正4年から昭和16年にかけては、住職により私立の弘文学校が開かれていました。

昭和51年7月に習志野市の指定文化財（天然記念物）となっている大イチョウは、幹周り3.76m、樹高約13.1mという大樹であり、樹齢約400年と推定されています。もともと正福寺の境内にあったものですが、戦後、市道ができたため道路上に取り残され、向かいにある観音堂も道路を挟んで分断されてしまいました。平成の初め頃には、樹勢の衰えや枝枯れが目立つようになり、主根の腐朽、幹の腐食の広がり等が進み危険な状態であるとの樹木医さんの診断結果のもと、平成4年1月に外科手術を行い、蘇生外科治療の甲斐あって徐々に回復し、現在では色艶のよい葉を付けています。

観音堂は子安観音堂とも呼ばれ、1597年に創建されたと伝えられます。本尊は木造聖観世音菩薩坐像で、お堂の天井には絵画が描かれています。観音堂の脇には習字等を学んだ子弟が、師匠のために建てた石碑である筆子碑（筆子塚）があります。



No.30 イチョウ（大イチョウ）

◆藤崎堀込貝塚

約 5000 年前の縄文時代中期から約 3000 年前の後期の居住地跡と考えられ、ハマグリ・アサリ・シオフキなどの貝類が発見され、今も地表の畑をおおっており、かつてはこの台地の下あたりまで海水が入り込んでいたことがわかります。その他にもイワシ・アジ・タイ・ハゼ・サバなどの魚類や鹿・猪などの骨片が出土しています。また、さらに下の地層からは、旧石器時代（1 万 2 千年以上前の石器時代）の石器や黒曜石が多数出土しています。黒曜石は千葉県では出ないため、遠く長野県・伊豆地方と、海産物との物々交換をしたのではないかと考えられています。

◆藤崎森林公園（旧大沢家住宅）

旧菊田川水系とつながる低湿地帯に所在した自然池を中心に、周囲の自然林を生かして出来た公園です。池に沿って遊歩道があり、桜や菖蒲、紫陽花など季節の花が楽しめます。カワセミなどのバードウォッチングに訪れる人もいます。園内の高台には、300 年以上前の民家である旧大沢家住宅の佇まいが見られます。当家は県内上総地方に所在し、代々名主を務めた由緒ある家柄で、昭和 48 年本市に寄贈され、移築復原したものです。移築復原された民家としては、東日本で一番古く、千葉県指定有形文化財となっています。この他、園内には森林鉄道として活躍したディーゼル機関車も展示されています。



◆薬師寺

真言宗習雲山瑠璃院薬師寺といい、薬師如来を本尊としています。大久保新田の開祖といわれる市角頼母家の持仏堂であったのを、昭和 17 年（1942）に東漸寺住職の浜中海雲僧正によって寺となりました。吉橋組大師講第八十八番札所と習志野七福神の弁財天札所です。明治 30 年（1897）代には大久保小学校仮校舎として、使用されていました。